

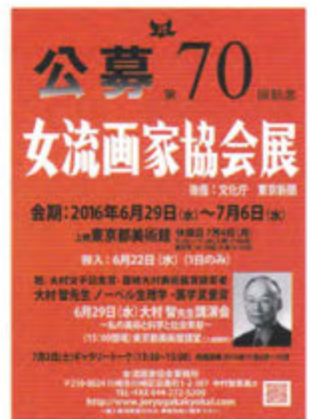
「第70回記念女流画家協会展」開催

2016年6月29日～7月6日、第70回記念女流画家協会展は、華やかに賑々しく展覧会が開催され、女性の熱気と熱意に溢れた会場になりました。

- 出品総数659点。うち遺作 青木純子委員 徳植久子委員。
- 総会、授賞式、懇親会、ギャラリートーク、研究会を開催。

《第70回記念関連事業》

- 大村智先生の講演会「私の科学と美術と国際貢献」を開催。大勢の参加希望者が詰めかけ、大村先生のスライドを使った説明を熱心に聴き入りました。
- 第70回記念女流画家協会展画集を制作、650点の作品を掲載。
- 女流展への想いや願い、回想とカットを綴った委員15名による「70回記念エッセイ&カット」を制作、会場で配布。
- 第4号の女流画家協会会報を発行、会場で配布。
- 相模原市の企画で委員45名、会員受賞者13名、計58名の作品展示。
- 新美術新聞2016年6月21日No.1411に、大村智先生へのインタビュー記事、委員の集合写真と女流画家協会略年表等を掲載。
- 荏崎大村美術館で「女流画家協会70回記念収蔵品展」(2016/10/1～2017/1/9)開催。




[右上] 第70回記念女流画家協会展チラシ
[右中] 第70回記念エッセイ&カット
[右下] 女流画家協会展会場
[左下] 第70回記念委員集合写真

昭和22年2月三岸節子ら11名の発起人をもって創立された女流画家協会は昨年70周年記念展を盛況のうちに終了致しました。71回展からは会期が5月末に、展示場所をロビー階全フロアと4棟一階に移し新たな出発となりました。長きに渡りご支援頂いている大村智先生初め賞をご提供頂いた提賞者(社)の皆様、後援の文化庁、東京新聞、そして何より出品者の皆様にお礼申し上げます。女流画家協会は昨年度初入選者が52名、前年比16名増加と年々増えております。

これは女流画家の地位向上と新人の登竜門たれとする独自の精神がHP等で広報周知されている賜物と委員一同喜ばしい限りです。親身な作品指導に定評がある長年の研究会活動も出品者増加の一因と考えられます。今年より出品作品を記録するために5周年毎の画集作成を毎年と致しました。また地方巡回展は毎年開催しております。今年は7月金沢展、11月相模原展を企画しております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

(事務局 中村智恵美)

石川県立美術館

〒920-0963 石川県金沢市出羽町2-1
<http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp>

■バス：JR金沢駅東口(6番のりば)から「兼六園シャトル」で乗車15分、「県立美術館・成巽閣」下車、徒歩2分

■自家用車：北陸自動車道金沢西IC、金沢東IC、金沢森本ICより20～30分



地方巡回展

「女流画家協会金沢展」 2017年 7月20日(木) - 24日(月) 石川県立美術館本館1階 第7・8・9展示室
「女流画家協会相模原展」 2017年 11月 3日(金) - 14日(金) 相模原市民ギャラリー (JR相模原駅4F)

第70回記念女流画家協会展 講演会「私の科学と美術と国際貢献」

講師：大村 智 先生 北里大学特別荣誉教授、2015年ノーベル生理学・医学賞受賞

2016年6月29日（水）東京都美術館講堂

女流画家協会は、第70回記念として、大村智先生にご講演いただきました。

この講演記録では、ノーベル賞受賞に至るまでの大村先生の研究についてのお話しを中心に抜粋してお伝えします。

司会：伊藤育子、あいさつ：入江一子、花束贈呈：福島瑞穂・葦崎市、閉会の辞：中村智恵美



70周年の記念講演に招いていただき、本当に有難うございます。女流画家協会とは深いご縁がありまして、協会に何か賞をというお話から、私の家内の名前をとった大村文子記念賞という賞をださせていただいて、その後、葦崎大村美術館賞を設けるなど、色々とお世話になっているわけでございます。

私が思う存分美術のことができるということと、やはりサイエンスに関係してまいりますので、私の研究の話を行います。



自然界の色々なところには微生物が住んでいます。様々な場所から微生物をとって参りまして、一つ一つを分離します。それを培養した培養液の中に何か有用なものが入っていないか調べていくわけですが、これはとても一人でできる仕事ではありませんので、大勢の皆さんと一緒に研究を続けております。

私共は製薬会社のメルク社との共同研究を通じて、数え切れない程の化合物を見つけました。その中に、動物の消化管に住む線虫を殺す効果のある化合物であるイベルメクチンがあります。

イベルメクチンは1981年から販売され、3年後には動物薬として世界で1番売り上げがある薬となりました。世界中の家畜やペットのほとんど全てがこの薬を飲んできた時期があります。その後、研究を重ねた結果、1987年から人にも使えるようになりました。最初に使われたのは、オンコセルカ症というアフリカや中南米に蔓延している病気に対してで、我々とメルク社は、この病気のための薬「メクチザン」の無償供与に協力しました。また、2000年からはリンパ系フィラリア症にもこの薬が使われることとなります。これにより、オンコセルカ症は2025年に、リンパ系フィラリア症は2020年に撲滅されるだろうといわれています。この二つの病気の撲滅に向けて貢献したということで、キャンベル博士と私がノーベル賞を受賞することになったのであります。



無償供与した薬は別ですが、動物薬や人用の薬の売り上げによって、特許料をいただくことができます。特許料は、まず研究のために使いました。また、北里研究所の再建や病院の建設、人材育成事業にも役立ちました。病院の建設では、設計段階から絵を飾れるように考えました。学校法人北里研究所には約1,700点の絵画が収蔵されております。それをこの病院の中で展示し、「ヒーリング・アート」を先駆けたわけです。また、看護の専門学校も設立し、ここにも絵を掛けています。

なぜこのようなことをしたかという、その当時振り返ってみますと、20世紀後半で、科学はものすごく進歩している。ところが、どうも心の問題が取り残されてるように私は感じたわけです。21世紀は、本当に心を大事にする時代になって欲しい。そういう願いを込めてこういったことをしてきたのです。

今日の話の最後になりますが、私が一番大事にしたのは、人を育てること、後継者を育てることです。私の研究室からは、125人が博士号を取りました。それだけの人がそれぞれの分野で教授として活躍しているわけです。人を育ててきたから、今回のノーベル賞受賞にも繋がったのです。

最後までご清聴頂きありがとうございました。



[下] 葦崎大村美術館
[右] 葦崎大村美術館で「女流画家協会70回記念収藏品展」(2016/10/1～2017/1/9)が開催されました



女流画家協会
70回記念 収藏品展

2016.10.1 ~ 2017.1.9

女流画家協会 70回記念収藏品展



《70周年記念賞》

「不可侵」100 S

石崎 永遠 (一般・東京)

私は学芸大学三年在学中です。この度初出品で榮譽ある70周年記念賞を頂き感激いたしております。出品しようと、決意いたしましたのは、卒業生の先輩たちが、当会で大活躍していらっしゃる姿を、まぶしく見ていたからです。

この作品は、一目見て迫力があり、細部迄面白いようにと意図しました。

特に金属の錆にはいろいろの色彩を感じることが出来、楽しみながら夢中で描きました。

モチーフは、奥多摩のある工場の、廃材置き場で見つけました。

(手塚、上杉)



《トークロ・東美賞》

「前略 お元気ですか。」130 F、「想い出ソナタ」130 F

後藤 玉枝 (一般・京都)

絵の制作に入る前に、私は必ずオブジェを作ります。粘土を捏ねて大体の雰囲気を作り、石膏で作った胸部や足を付けたり取ったりロープで吊るしたり、木の枝やレンガを組み、土を撒いたりの作業です。この不思議な物体に昼間の自然光を当て、キャンバス上での制作へと移行します。ゴールも正解も見当たらないこの世界で、オブジェ同士が共鳴しあい、生きている物と過ぎ去り壊れゆく物達に誘われ、私が制作上、手応えを感じる唯一の瞬間かもしれません。このたび、受賞させていただき、本当にありがとうございました。

(川口・北和)



《マイメリ賞》

「夢のつづき」130 F

田中 千賀子 (会友・富山)

最近のテーマは、日常の何気ない生活の中で喜び、悲しみ、叫びなど感じた思いを、日記に書くように、私はキャンバスに描きたいと思っています。画材の珪藻土との出会いで、また描くことの楽しみが、広がった気がしています。これからも、自分の思いを、好きな色と形で表現出来るように、努めていきたいと思っています。毎年、東京に出て来て、会場の作品を見ることが、絵を描き続ける原動力になっております。今回受賞することが出来、大変嬉しく、今後の励みになりました。

(川口・北和)

インタビュー画ガール



《クサカベB賞》

「水辺の町」100 F

生地 京子 (会友・富山)

俯瞰で眺めた島々や、町並みの心象風景が特長です。俯瞰への想いは、若かりし頃、山ガールだった時の感動が意識の中にあるのかもしれません。絵空事の中で、私がキャンパスの絵の中で遊んでいます。カゼインテンペラと油彩で描き、何回も補色の色をかさねて、旅情がでるように下地をつくっています。最近は、より下地づくりに時間をかけています。次は、どこの町へ出かけましょうか？いつまでも見果てぬ夢を追いかけております。

(川口・北和)



《ラファエル賞》

「夢」130 F

江口 順子 (会友・新潟)

この度、受賞させて頂き心から嬉しく思っております。作品の原点は、一人の少女が生を受け、産湯を使わせて上げ、成人になった今も、彼女を見つめ続けてずと描いて参りました。一人の人間を見つめ描き続けて行くことは、私自身の人生にも何か通ずる糧をもらっております。全てのモチーフに対しても、温かなまなざしを向けて行ける「証」でもあるように思えるのです。描くことに没頭するときは幸せです。

雪深い町の日々、その温もりをこれからも描き続けたいと思います。

(手塚、上杉)



《奨励賞》

「夢人」100 S

新戸部 ひろみ (会友・八戸)

風が作り出す風紋の美しさに魅了され、学生の頃より日常的に砂浜風景を描いてきました。その時々的心情によっても、色や景色は違って見え、その場に流れる空気感を大切に制作に取り組んでいます。砂の紋様や造形物は刻と共に変化し、同一の姿や状態を留めない様々なモノを象徴しているように見えます。6年前、3・11東日本大震災に遭遇しました。どう生きようかどう描こうか、改めて考えました。夢や希望を胸に歩む人間を描きたいと思いました。

(手塚、上杉)

2017年1月より研究会の担当になりました。1回目は参加者29名、2回目は46名の参加があり、熱心で意欲的な人達が集まりました。将来の女流が楽しみです。今回から諸先輩が育ててくださった研究会を踏襲しつつ、参加者の意向を聞きつつ、改革できる事はやっていく予定です。2年間、魅力ある会にしていくように広瀬晴美さんと一緒に努力していきたいと思います。（堀岡正子）



担当：堀岡正子(委)、
広瀬晴美(委)

【参加者の声】

- デッサン、クロッキーの勉強になるので研究会に入った。多くの先生の話は大変刺激になった。
- 出版関係の仕事についたが、デッサンを続けたいと思った時、女流の展覧会で研究会のチラシを見て入り、休まず20年以上続けています。
- 人物デッサンをする所を探していた時に、女流展の会場で研究会のポスターを見たことが参加するきっかけとなる。研究会に参加している人達の熱気が、自分も女流展に出品することを後押ししてくれた。
- 人物を描く機会がある事が良い。情報交換ができる。

第70回記念 女流画家協会 相模原展

委員・会員受賞者58名による作品展

2016年11月4(金) - 11月15日(火)

相模原市民ギャラリー

女流画家協会 相模原展によせて

元相模原市民ギャラリー館長 柳川 雅史

美術にしる音楽にしる、芸術の世界は長年にわたり男性を中心にまわっていました。しかし、芸術には男性・女性を隔てる必要はなく、むしろ女性ならではの感性に期待を寄せる風潮も生まれてきました。今から70年前、絵筆を手にした女性たちが集結したのは、そのような世相の反映だったのかも知れません。

その後、社会情勢は大きく変わり、女性の社会進出も当時から想像もつかないくらいに華々しくなっています。美術界においても女性画家の活躍が目覚ましく、その背景に女流画家協会の存在が光っていたことは間違いありません。



相模原展
展示会場

ところで、近年、我が相模原でも貴協会の地方展が開かれるようになりました。相模原には何人もの優れた女流画家がおり、また、女子美術大学のキャンパスもあります。そのようなことから“相模原は女流画家の活躍が目立つ”というような声を聞くことも多くなりました。言わば、相模原で地方展が開かれるようになったのは必然であるのかも知れません。

女流画家の地位向上と新人の登竜門として設立された女流画家協会ですが、その精神は今も生き続けています。引き続き本展並びに相模原展を開催し、夢に溢れる若き女流画家たちの力になっていただくことを願ってやみません。

「入江一子展」 女子美術大学女子美ガレリアニク 2016年9月
「百寿記念～入江一子 自選展」 日本橋三越本店 美術特選画廊 2016年10月
「入江一子 100歳記念展～百彩自在」 上野の森美術 2017年1月

入江一子先生の百歳を記念展する展覧会が種々開催されました。「百寿記念～入江一子自選展」では、105歳の日野原重明先生（聖路加国際病院名誉教授）とのギャラリートークが行われ、5年前「入江さんが100歳の時、ぜひまた二人でギャラリートークを！」との約束が実現しました。



追悼

心よりお悔やみ申し上げます
2016年10月10日 逝去
田幸 稲さん(91歳)

編集後記 大村先生の講演会は、大勢の方が会場に入り切れず貴重なお話が聞けなくて残念だったとの声が多く申し訳なく思いました。カット&エッセイ集は、世代が変われば忘れられていくことも多々あるので、継続して書きとめておく必要があるのではないかと思います。(K)

女流画家協会 会報 vol.5 - 2017.5/29

発行日：2017年5月29日

発行：女流画家協会

編集委員：(委員) 上條陽子、吉川和美、
(会員) 上杉さなゑ、川口智美、北和子、手塚廣子

女流画家協会事務所

中村智恵美方

〒210-0024 川崎市川崎区日進町1-2-307

TEL・FAX：044-272-5200

http://joryugakakyokai.com